

八幡公園の現状と整備の方針



目黒区立八幡公園（中目黒 4-15-21）の現状

課題① 園内施設の老朽化と安全性の確保

- ・ 開園から 54 年が経過し、園内施設の老朽化が進んでいます。特に、遊具は安全に遊ぶための空間が十分に確保できておらず、ベンチは一部破損していることから、安全性における課題が明らかとなっています。

課題② 誰もが利用しやすいバリアフリー化の推進

- ・ 現在、トイレは子ども連れの方にとって狭く、水飲みは車いす利用の方が十分に近づけず、高さが合っていない状況があります。施設のバリアフリー化を行い、誰もが利用しやすい環境を整える必要があります。

課題③ ダスト舗装（土）流出に伴う樹木根の露出と歩行の危険性

- ・ ダスト舗装（土）の流出によって高木の根が地表に露出しており、公園内を歩行する利用者が躓（つまず）く原因となっています。

公園のシンボルの存在のエノキ



整備方針

1. 誰もが安全に安心して利用できる公園づくり

- ・ バリアフリーに対応した施設への更新
- ・ 今の安全基準に適合した遊具の設置

2. 公園の魅力度アップ

- ・ 空間構成や施設配置を、より使いやすく魅力的に再編
- ・ 公園の顔となる出入口とシンボルの存在の樹木に魅力的な景観を創出

3. 周囲の公園との差別化

- ・ 思い思いに過ごせる居場所を点在させ、周辺公園に少ない、都市の中でほっと一息つける憩いの場を創出
- ・ 遊具について、周辺公園とのバランスを考慮し、それぞれの公園に異なる楽しみ方が生まれるよう選定

4. 多世代の利用を想定する

- ・ 幼児から高齢の方まで、多世代が心地よく利用できる空間づくり
- ・ 多目的に利用できる広場を確保



イメージ

水飲み

子どもや車椅子でも利用できる
バリアフリー対応仕様
(水栓は自閉式)



イメージ

パーゴラ

ルーバー部分が日陰を作り、夏の
暑さを緩和



イメージ

バリアフリーストイレット

トイレの中で車いすを取りまわせる
サイズ

リノベーションのコンセプト(案)



『ふらっと立ち寄れる“すえひろがり” 八幡コミュニティパーク』

～遊具遊びだけじゃない、さまざまな人が気軽に利用できるコミュニティカフェのような憩い・集いの場～

キーワード

『八幡の“八”（すえひろがり）』

- ・ 安心が“ひろがる”
- ・ ひとのつながりが“すえひろがる”
- ・ みどりの恵が大きく“ひろがる”

テーマカラー

『黄色』

- ・ 空間を明るく彩り、新しい始まりを感じさせる色
- ・ 地域の日常をやさしく照らし、記憶に残る景観をつくる色

リノベーションイメージ



リノベーションイメージ



今後の予定

今回

令和8年
6月20日

第1回
あおぞら意見交換会

- ・ 公園の現状と整備方針を共有し、リノベーションのコンセプトと平面イメージ、施設案を提示します。

令和8年
7月中旬

・ ニュースレターの発行①
・ アンケート調査実施

- ・ ニュースレターでは、第1回意見交換会の報告を行います。
- ・ 公園利用者、近隣住民を対象にアンケート調査を実施します。

令和8年
9月中旬

第2回
あおぞら意見交換会

- ・ 第1回意見交換会とアンケート調査の結果を反映した、整備計画(案)を提示します。

令和8年
12月

・ 整備内容のとりまとめ
・ ニュースレターの発行②

- ・ 整備計画(案)を精査し、工事に向けて設計内容を取りまとめます。
- ・ ニュースレターでは、第2回意見交換会の結果と整備計画を報告します。

令和9年度

リノベーション工事

- ・ 工事中は全面閉鎖を予定しています。

プラン A



つづら折り スロープ

北の出入口は、つづら折りのスロープを設け、中央の広場をより一体的に広く確保するプラン。3案の中では、今の公園の使い方に一番近い。

- ①みまもりエリア：公園内を見渡せるよう、地面が高く開けたところに設ける。
- ②くつろぎエリア：シンボルツリー（エノキ）の木陰を活用した休憩スペース。根っこの上にベンチを設けることで、根の保護につながる。
- ③広場：ダスト舗装で構成する。
- ④こどもエリア：遊具が配置された、広場と一体となっている。近接した出入口は、飛び出し防止のため、植栽地とする。
- ⑤しずかなエリア：園路や出入口から離れたところにベンチを設けることで、静かに過ごすことができる。
- ⑥園路：出入口からバリアフリースイレまでを固い舗装でつなぐ。



北側出入口スロープイメージ



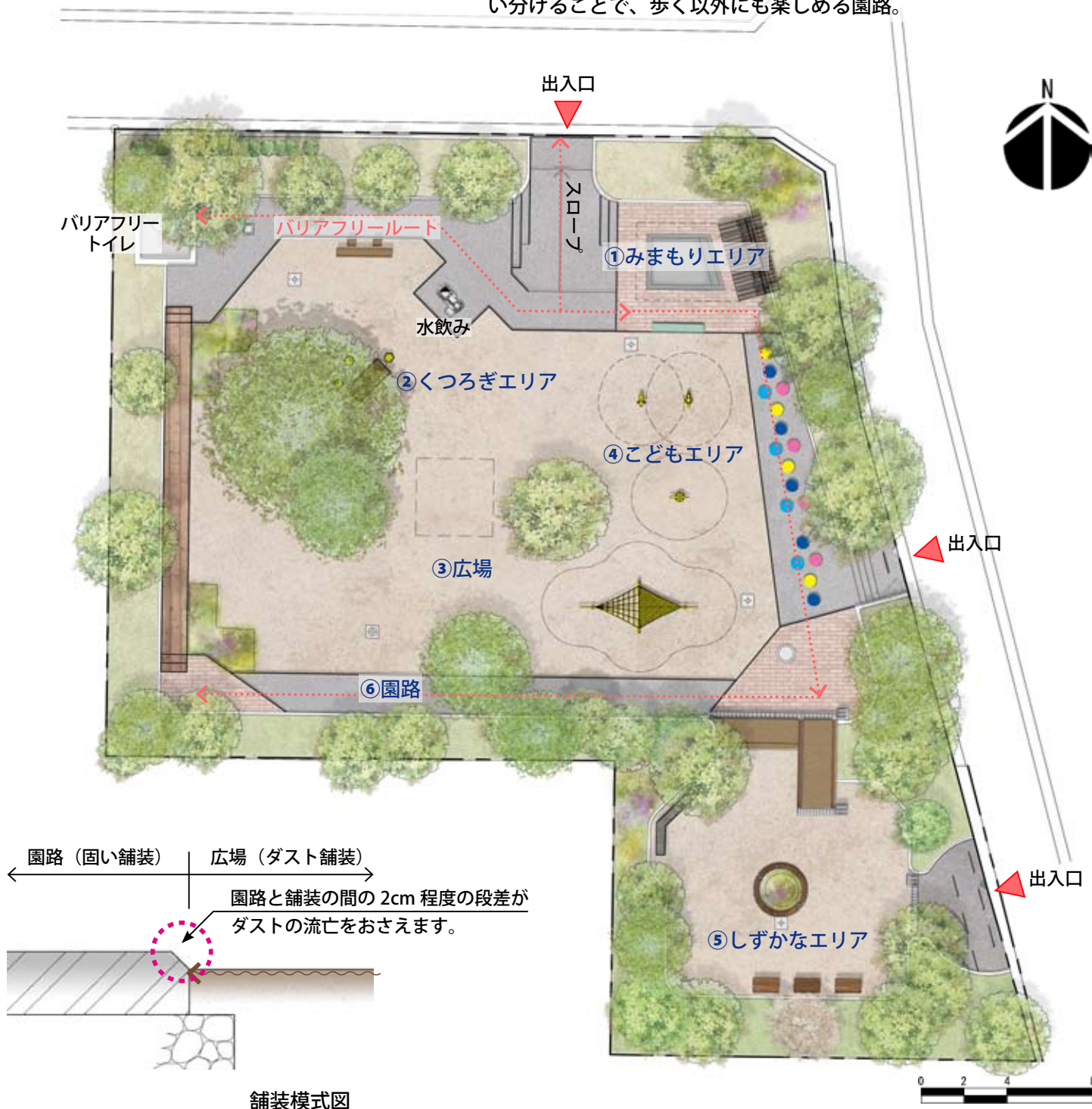
プラン B



いろんな舗装が ぐるりと続く

植栽帯に沿って回廊型に園路を設け、広場と公園周りとを区切るプラン。
広場を一段低くすることで3案の中ではダスト舗装の流出を一番
抑えることができる。

- ①みまもりエリア：公園内を見渡せるよう、地面が高く開けたところに設ける。
- ②くつろぎエリア：シンボルツリー（エノキ）の木陰を活用した休憩スペース。
- ③広場：他のエリアとシームレスにつながる空間。
- ④こどもエリア：ダスト舗装で構成する。
- ⑤しずかなエリア：園路や出入り口から離れたところにベンチを設けることで、静かに
過ごすことができる。
- ⑥園路：出入口からバリアフリースイレまでを固い舗装でつなぐ。素材を使い
分けることで、歩く以外にも楽しめる園路。



舗装模式図

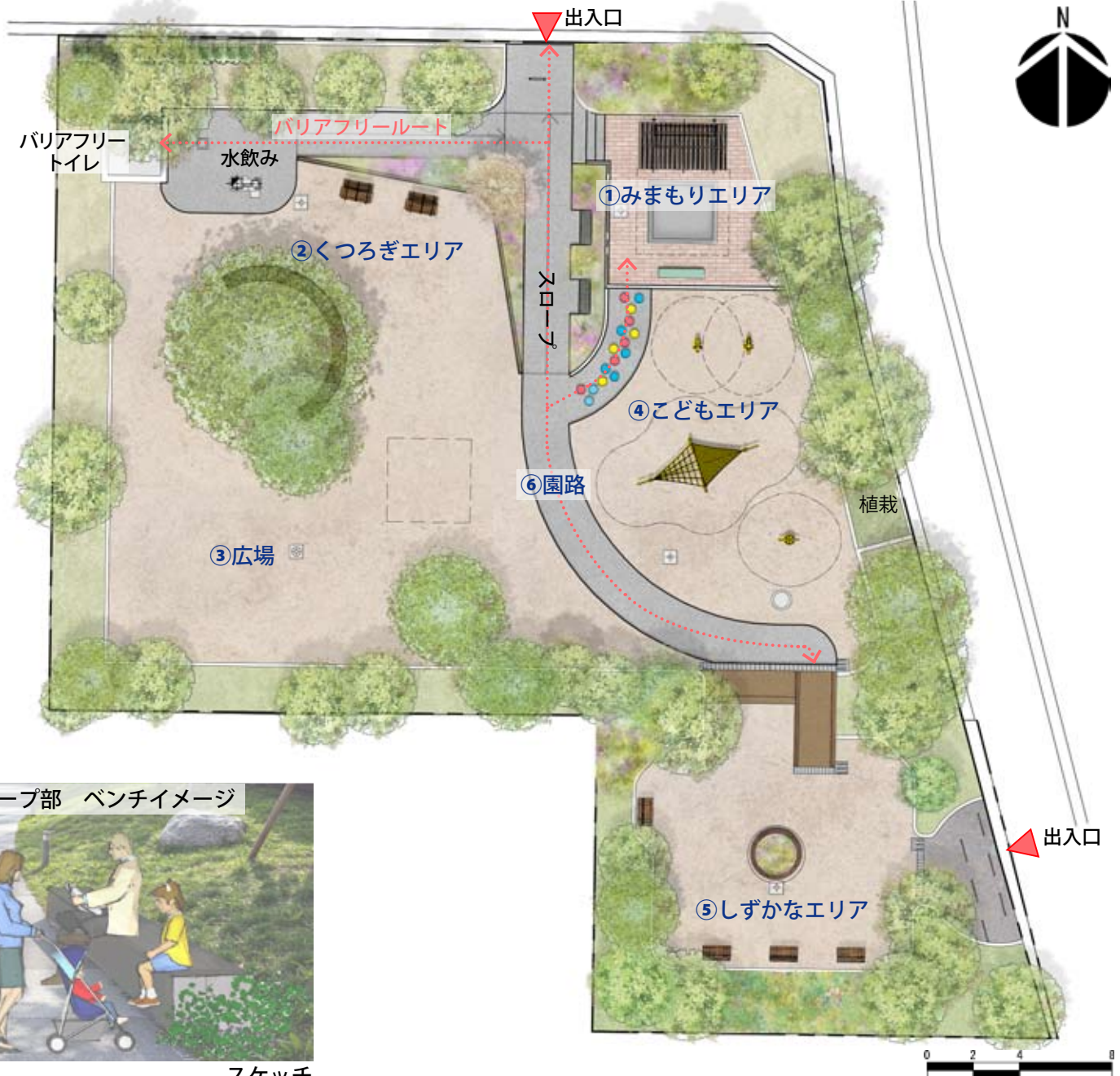
プラン C



南北をつなぐ園路によって、遊具のエリアと広場を区別することができるプラン。3案の中で、一番安心して遊ぶことができる。

園路で出入口をつなぐ

- ①みまもりエリア：公園内を見渡せるよう、地面が高く開けたところに設ける。
- ②くつろぎエリア：シンボルツリー（エノキ）の木陰を活用した休憩スペース。根っこの上にベンチを設けることで、根の保護につながる。
- ③広場：ダスト舗装と一部固い舗装で構成される。こどもエリアとの高低差はほとんどないため、エリアをまたいで広場として利用することも可能。
- ④こどもエリア：広場と分けた空間に遊具が配置されており、遊びの目的ごとにすみ分けされている。近接した出入口は、飛び出し防止のため、植栽地としている。
- ⑤しずかなエリア：園路や出入り口から離れたところにベンチを設けることで、静かに過ごすことができる。
- ⑥園路：緩やかで長いスロープを用いて南北を固い舗装でつなぐことで、園内を快適に移動できる。東西の緩やかなゾーニングで多様な利用者が同時に心地よく過ごせる。



スケッチ

遊 具



遊 具

複数人で遊ぶことができ、周辺の公園と異なる役割の遊具を選定



スイング遊具（既存遊具を移設する）



イメージ

すべり台（既存の遊具）



イメージ

砂 場
（既存の遊具）

少し大きな遊具



イメージ

ツイストモック
（登る動き・バランス感覚・揺れる動き）



イメージ
AI 生成

舗装のペイント
（想像力が育まれる）



イメージ

黒板遊具
（想像力が育まれる）



イメージ

ボール & ハーフボール
（バランス感覚）



イメージ

スネイクジャングル
（登る動き）



イメージ

くじらのうんてい
（ぶら下がる・移動する動き）

ボールのデザインは
複数あり→



健康遊具



イメージ

インクルーシブぶらんこ
（同時に複数人（3人まで）で遊べる。
座位が難しい子も挑戦可）



イメージ

よこよこストレッチ
（年齢を選ばず、車いす利用の方も使
用できる。）



イメージ

ミストボール
（水遊びを楽しめる。暑さ対策に有効）

休憩施設



イメージ

背もたれベンチ

ゆったり落ち着いて休憩できる施設。



イメージ

サークルベンチ

根上りしている部分を避けて、木を取り囲むように設置。木陰でのんびりくつろげるスペース。



イメージ

ハイチェア & ハイカウンター

視線の高さを変えることにより、公園全域を見渡することができる。



イメージ

コンクリートベンチ

シンプルなデザインで周りの環境を邪魔せず、公園にモダンな印象を与える施設。

コンクリートベンチとスツールを組み合わせることで様々な利用を生み出すことができる。



イメージ



イメージ

テーブルベンチ

お弁当を食べたり、書きものをしたり屋外での活動の幅が広がる。

縁台とスツールを組み合わせることで、テーブルベンチと似た利用ができる。



イメージ

スツール



イメージ

縁台

どこからでも腰掛けることができ、広い座面を持つことから、多目的に利用できる。